

平成29年1月13日

## 中央区は55年ぶりに定住人口15万を突破しました

本区の人口は、平成29年1月13日に15万人を突破し、昭和37年以来55年ぶりに15万人台となりました。

本区が誕生した昭和22年当時の人口は116,940人でしたが、復員や戦災復興とともに急速に増加し、昭和28年には172,183人とピークを迎えました。しかしその後、高度経済成長と都市化の進行に伴い減少し、昭和40年には14万人を割り、さらにバブル経済を背景とした地上げや底地買いなどにより、平成9年4月には戦後最低の71,806人まで減少し、都心の空洞化や地域活力の低下などが深刻になりました。

このため本区では、定住人口回復を区政の最重要課題と位置づけ、昭和63年1月に「定住人口回復対策本部」を設置し、「都心に人が住めるようにしよう」を合い言葉に住環境の整備を中心とした総合的な施策に区の総力をあげて取り組んできました。その結果、平成18年4月4日には長年の目標でありました「定住人口10万」を達成しました。その後も、人口は順調に増え続け、平成20年9月に11万人、平成23年11月に12万人、平成25年4月に13万人、平成27年4月に14万人、そしてこのたび15万人を突破しました。平成27年10月実施の国勢調査では、本区の人口増加率は15.01%で、全国5位でした。こうした人口増加は今後も続き、区の推計では平成36年ごろには「20万都市」も見込まれます。

人口構成では、特に30代、40代、50代の働き盛り世代が中心となり、かつて23区の中ではトップクラスであった高齢化率が現在では15.85%と最も低くなっています。年間出生数は平成11年までは500人台でしたが、10万人を達成した平成18年以降は1,000人を超え、昨年は2,032人の新生児が誕生しており、昭和28年以来63年ぶりに2千人を超えました。また、合計特殊出生率は平成16年には0.85でしたが、それ以降増加傾向が続き、平成27年は1.42と前年を0.07ポイント上回っております。本区は“ベビーブーム”が続き、まちには“にぎわいと活気”が満ちあふれております。

3年後には、世界最大・最高の「スポーツと平和の祭典」である東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。大会の中心となる選手村を擁する本区といたしましては、「世界一の都市」を目指す東京の牽引役として、2020年およびその先を見据えた区内全体の良好なまちづくりに一段と弾みを付け、区民の皆さまが快適な都心居住、都心での事業展開の素晴らしさを謳歌し、「輝く未来へ橋をかける —— 人が集まる<sup>いき</sup>粋なまち」を目指してまいります。